

—日本最大の円墳—

# 富雄丸山古墳



## ● 古墳の現地学習を通して歴史を学ぼう

古墳の現地学習に参加していただくみなさんには、実際に古墳の上へのぼり、その大きさや形を体感しながら、その大切さについて学習していただけます。

そのなかで、発掘調査体験にも参加し、発掘調査が何のために、またどのように行われているのかを理解してもらいます。

発掘調査では、昔の人が活動したあとや、使っていた土器や埴輪などが土の中からでてきます。今回の現地学習では、実際に「見て・触れて・体験」することで、歴史についてさらに興味を深めていただくことを目的としています。

このハンドブックの内容は、考古学と発掘調査についての基礎的なことや富雄丸山古墳のことを記しています。

事前によく読んでいただき、古墳の現地学習を有意義な時間にしましょう！

## ● 目次

考古学とは	1
発掘調査とは	1
古墳をつくる手順と現在にいたるまでの変化	2
発掘調査の手順－古墳編－	3
富雄丸山古墳について	5
埴輪について	15
埴輪図鑑	16
富雄丸山古墳の時代	17

## ● 考古学とは・・・？

考古学とは、人が作ったものや生活した痕跡から、過去の人々の活動を考える学問です。過去の人々が活動した痕跡のあるところを「遺跡」といいます。

遺跡には、大きくわけて「遺構」と「遺物」があります。建物（柱穴）や溝などの移動しない生活のあとが遺構、土器や埴輪などが作り動かすことができるものが遺物です。遺跡（遺構・遺物）の多くは、長い年月をへて土に埋まってしまいます。このように、土に埋もれた文化財のことをとくに「埋蔵文化財」といいます。

埋蔵文化財は、一般的に発掘調査などによって発見されます。この発見された埋蔵文化財から、当時の生活や歴史を考えるのが考古学です。

皆さんも今回の発掘調査を通して考古学について学んでみましょう！



## ● 発掘調査とは・・・？

発掘調査は、過去の人々が活動した痕跡を明らかにする目的で行います。

道路や建物をつくる際には、遺跡があるかどうかを試掘調査で確認し、遺跡があれば本発掘調査を行います。このような開発に伴う調査を緊急調査といいます。

一方、歴史を解明するために学術的な目的をもって行う調査を学術調査といいます。富雄丸山古墳も、規模や形状を確認する目的で行う学術調査です。

発掘調査を一度行くと、二度ともとの状態に戻すことはできません。発掘調査も一種の破壊行為であることを忘れてはいけません。だからこそ、図面や写真に記録し後世に伝える必要があります。これを記録保存といいます。

皆さんにはこれをふまえて、発掘調査に参加していただきたいと思います。



# ● 古墳をつくる手順と現在にいたるまでの変化

## ①古墳を造るのに良い場所をみつける

- ・丘陵の上など見晴らしの良い場所を選ぶ



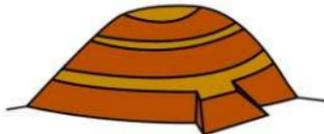
## ②地山を削って整形する

- ・地山はデコボコなので、削ってきれいにする
- ・段築や造出しもある程度地山をけずってつくる



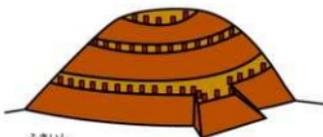
## ③土を盛り、古墳の形をつくる

- ・丘陵上の古墳は労力をへらすため、なるべく少ない盛り土で古墳の形をつくります



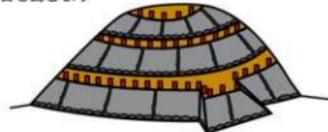
## ④埴輪を並べる

- ・間隔や高さがそろうように並べます

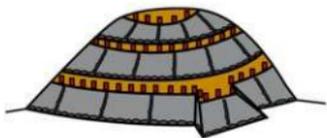


## ⑤葺石を並べる

- ・基礎石や目地となる石を並べてから全体に石を葺きます



## ⑥古墳が完成し埋葬や儀礼を行う



## ⑦年月がたち埴輪がこわれる



## ⑧風雨により葺石がくずれる

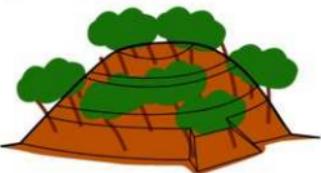


## ⑨長い年月をへて盛り土がくずれる

- ・盛り土がくずれると古墳の形もくずれる



## ⑩現在の古墳にいたる



## ● 発掘調査の手順 - 古墳編 -

古墳を発掘調査するときの手順は、先に紹介した古墳がつくられ、長い年月をかけてくずれていく過程の逆を考えながら進めます。

### ① 発掘区を設定する

学術的な目的で発掘調査する場合は、なるべくこわさずに求める成果が得られるように考えて発掘区を設定します。重要なことは、何を明らかにしたいか（古墳の形や古墳の築造方法など）をよく考えることです。

### ② 表土<sup>くさく</sup>を掘削する

富雄丸山古墳では長年、墳丘に木々が生い茂っていたため、落ち葉が土にかえることを繰り返しており、墳丘の表面には腐葉土が堆積しています。まずはこれを掘削します。

### ③ 流土<sup>りゅうど</sup>を掘削する

古墳は完成してから1600年ほど経過しているため、多くの場合、風雨により土留めの役割も担っていた葺石がくずれて、墳丘の盛り土がくずれています。くずれた盛り土は下方へ流れていきますがこれを流土といいます。流土を掘削することで、完成時の古墳に近い表面に到達します。

ただし、流土なのか本来の盛り土であるかの判断は非常に難しい問題です。とくにはじめて調査する古墳の場合は、流土や盛り土の土質・色がわからないため、発掘区の一部を深く掘り下げることで土層を確認する方法もあります。

### ④ 葺石や埴輪列などを検出する

流土を除去すると、古墳本来の表面が現れます。しかし、葺石や埴輪は風雨によって流されている場合が多く、本来配置された場所から動いて検出されるものが多くあります。埴輪などの遺物は崩れた場所から本来の配置を推測することもできるので、遺構や遺物は記録をとるためにきれいに検出してその状態でおいときます。



富雄丸山古墳造出し斜面の葺石と埴輪列

## ⑤遺構を掘削する

古墳の墳丘に建物などの遺構が構築されることはほとんどありませんが、例えば周濠<sup>しゅうこう</sup>がある古墳であれば、墳丘に渡るための橋が設けられて柱穴が検出される場合があります。また、周溝のような掘り下げられた遺構であれば、検出した後に掘削して堆積状況を確認します。

## ⑥記録作成作業を行う

遺構を検出し、必要な部分を掘削したら記録をとります。まず検出した状態での写真撮影を行います。その後、墳丘の築造過程を示す土層断面図<sup>どくわん</sup>、発掘区内の遺構・遺物の広がりを記録する平面図を作成します。葺石など複雑な遺構が多い場合は、写真やレーザー測量を用いた三次元計測を行い、それを下図にして補足実測を行う方法もあります。

これらの記録作成は正確に行うことがなにより重要です。

## ⑦補足調査を行う

記録作成作業が終わると、遺物を取り上げたり、くずれた葺石を外す作業を行います。この作業により、新たに遺構や遺物が見つかる場合もあります。これらも先ほどと同様に記録作成を行います。

## ⑧埋め戻し作業を行う

補足調査が終了したら、発掘区を埋め戻します。丁寧に埋め戻さなければ土が流れてしまい、保護すべき遺構などがこわれてしまう恐れがあります。



体験では掘る作業がメインだけど、  
実際は埋め戻しまで気を抜けない  
作業がいっぱいなんだ！

しかまろくん  
©奈良市観光協会

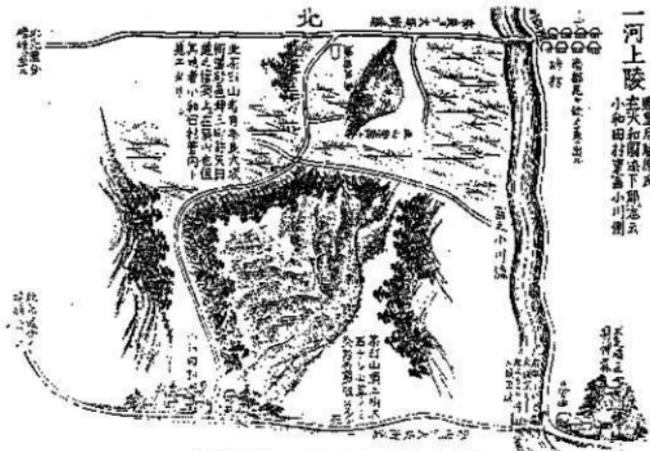
## ● 富雄丸山古墳について

富雄丸山古墳は、奈良市丸山一丁目 1079 番地の 239 にある丸山第 1 号緑地内にあります。開発によって、周辺の地形は大きく改変されましたが、これに伴う発掘調査で古墳の重要性が示され、東側の富雄丸山 2・3 号墳とともに保存されました。

### I. 江戸時代の富雄丸山古墳

江戸時代末の嘉永 7 (1854) 年にかかれた『聖蹟図志』のなかで、富雄丸山古墳は河上陵(藤原帯子の墓)として図示されており、古くから存在が知られていたようです。

また、富雄丸山古墳の北西にある弥勒寺には三角縁神獸鏡 1 面(出土地不明)が江戸時代から所蔵されています。



『聖蹟図志』に書かれた富雄丸山古墳

※江戸時代には富雄丸山古墳が「茶白山」と記されていますが、現在は「丸山」と記された丘が茶白山古墳とされており、名称が逆転しています。

### II. 明治時代の盗掘と出土遺物

明治時代に盗掘されており、その際に出土したと考えられる遺物が守屋孝蔵氏の所蔵品となり、それを昭和 43 (1968) 年に京都国立博物館が購入しています。奈良県教育委員会が昭和 47 年に実施した発掘調査で出土した鉄形石の破片がこれと接合したことから、京都国立博物館所蔵品は間違いなく富雄丸山古墳から出土したものであることがわかりました。

京都国立博物館所蔵品には、碧玉製の合子、管玉、白玉、鉄形石、琴柱形石製品、石製模造品(刀子・ノミ・ヤリガンナ・斧頭形)、有鉤銅形銅製品、銅板があります。

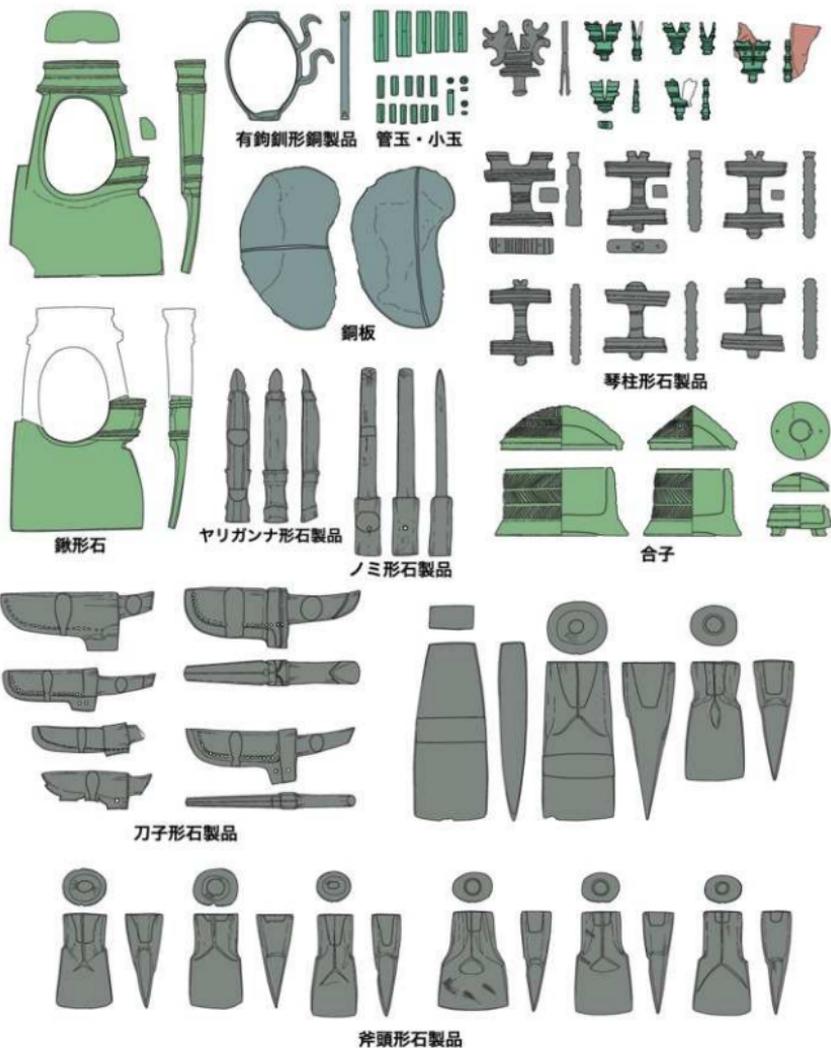
このほか、守屋孝蔵氏が「伝富雄丸山古墳出土品」として所蔵していた三角縁神獸鏡 3 面が天理参考館に所蔵されています。京都国立博物館に所蔵される出土品には「伝」が付いておらず、鏡に関しては本当に富雄丸山古墳から出土したものなのか定かではありません。

## 京都国立博物館所蔵の富雄丸山古墳出土品



京都国立博物館提供

# 京都国立博物館所蔵の富雄丸山古墳出土品



図出典：京都国立博物館 1982 『富雄丸山古墳・西宮山古墳出土遺物』

## 天理参考館所蔵の伝富雄丸山古墳出土鏡と

## 弥勒寺所蔵の三角縁神獸鏡



さんかくぶちがまうらんだいばんりゅうきょう  
三角縁画像文帯盤龍鏡  
(天理参考館所蔵)



さんかくぶちかんじょうにせうしんしじゅうきょう  
三角縁環状乳四神四獸鏡  
(天理参考館所蔵)



さんかくぶちがまうらんだいごしんしじゅうきょう  
三角縁画像文帯五神四獸鏡  
(天理参考館所蔵)



さんかくぶちごさくのかにしんしじゅうきょう  
三角縁吾作銘二神二獸鏡  
(弥勒寺所蔵、奈良市埋蔵文化財調査センター保管)

※三次元画像はいずれも奈良県立橿原考古学研究所提供

### III. 奈良県教育委員会が実施した過去の調査成果

#### 【富雄丸山古墳第1次発掘調査】

昭和47（1972）年に奈良県教育委員会が宅地造成に伴う調査を実施しました。測量調査の結果、直径86mの円墳であるとされました。墳頂の発掘区では粘土槨（埋葬施設）1基がみつかりました。粘土槨は2段に掘り込まれた墓壇につくられ、南北10.6m、東西6.4mの平面規模は全国最大級といえるものです。

この調査で出土した遺物には、管玉・鐵形石製品・鍬形石・小札・鉄剣・鉄刀・鉄鏃・鉄槍・農工具・漁具・巴形銅器・筒形銅製品・銅鏃・円筒埴輪・形象埴輪があります。



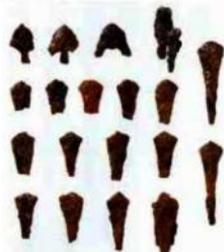
富雄丸山古墳の粘土槨（奈良県立橿原考古学研究所提供）



巴形銅器



鐵形石製品

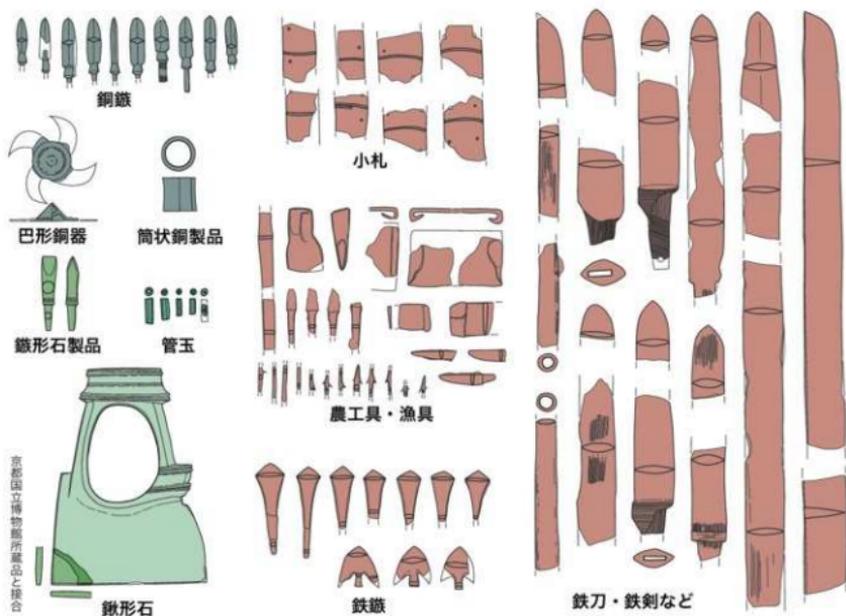


鉄鏃

（奈良県立橿原考古学研究所附属博物館提供）



## 富雄丸山古墳第1次調査で出土した遺物



図出典：奈良県教育委員会 1973 『富雄丸山古墳』



墳輪 (奈良県立橿原考古学研究所附属博物館提供)

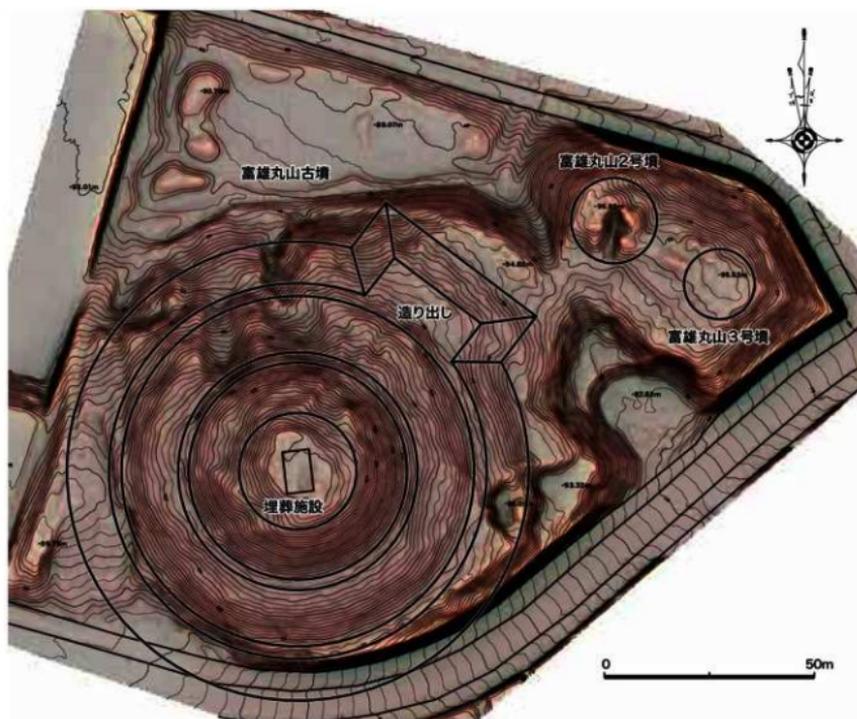
#### 【富雄丸山古墳第2次発掘調査】

昭和 57（1982）年、富雄丸山古墳の墳丘北東側で試掘調査が行われています。この発掘区では、周溝と墳丘斜面の葺石、原位置を保つ埴輪が出土したとされています。この調査で、墳丘の北東部に長さ 16m、幅 34m の造り出しが付設する可能性が示され、直径も一回り大きい 102m 前後の円墳である可能性が指摘されました。また、造り出しでは家形埴輪が出土したとされています。

## IV. 奈良市教育委員会による調査

#### 【第1次調査：航空レーザ測量】

平成 29（2017）年度に奈良市教育委員会では、富雄丸山古墳の現況を明らかにすることを目的に航空レーザによる三次元測量を実施しました。その結果、3段築成で直径約 110m の大型円墳であることがわかりました。県第2次調査で指摘された造り出しも測量図をみると明らかです。



航空レーザで計測した富雄丸山古墳の赤色立体地図

### 【第2～5次調査：発掘調査】

航空レーザー測量の成果をもとに発掘調査を実施しました。

その結果、墳丘の裾を確認し直径約109mで三段築成の造出し付円墳であることを発掘調査によって明らかにしました。1・2段目平坦面は幅が7～9mと広く、その中央には1段目が普通円筒埴輪、2段目が鏝付円筒埴輪であることを確認しました。各段の斜面には葦石が施されていますが、多くが崩れています。3段目（墳頂部）は中央に埋葬施設の粘土槨があります。これを囲うように方形になると思われる壇もみつかりました。ただし、墳頂部は盗掘やすでに発掘調査が行われており改変されていることから、埴輪列や壇などの正確な構造は不明瞭です。しかし、盗掘坑からは円筒埴輪のほか家・盾・蓋形埴輪等の形象埴輪が出土しており、本来は埋葬後に墳頂部で埴輪祭祀が行われていたことがわかっています。

また、円丘部の南東側で2段目斜面の裾にあたる位置からは、溝で区画された内部に家形埴輪と圀形埴輪が入れ子状になった状態で出土しました。家形埴輪の内部には2槽式の構造物が備え付けられており、湧水施設を表現した埴輪と考えられます。このような埴輪は全国で数例しか見つかっておらず、富雄丸山古墳出土品はそのなかでも最古級の事例です。



円丘部南東側でみつけた区画施設と湧水施設形埴輪（第5次調査）

造出しの調査では、造出しも3段築成であることがわかりました。しかし、構造は左右対称ではなく、段が収束するなど特殊なものです。造出し裾の屈曲部では両側で基底石を確認し、幅が約45mであることがわかったほか、下段平坦面には円丘部1段目平坦面から続く埴輪列が側面のみめぐるのが確認しました。北西側のくびれ部付近にのみ鍔付樽円筒埴輪を配置するなど、円丘部1段目にはない特徴も造出しにはみられます。

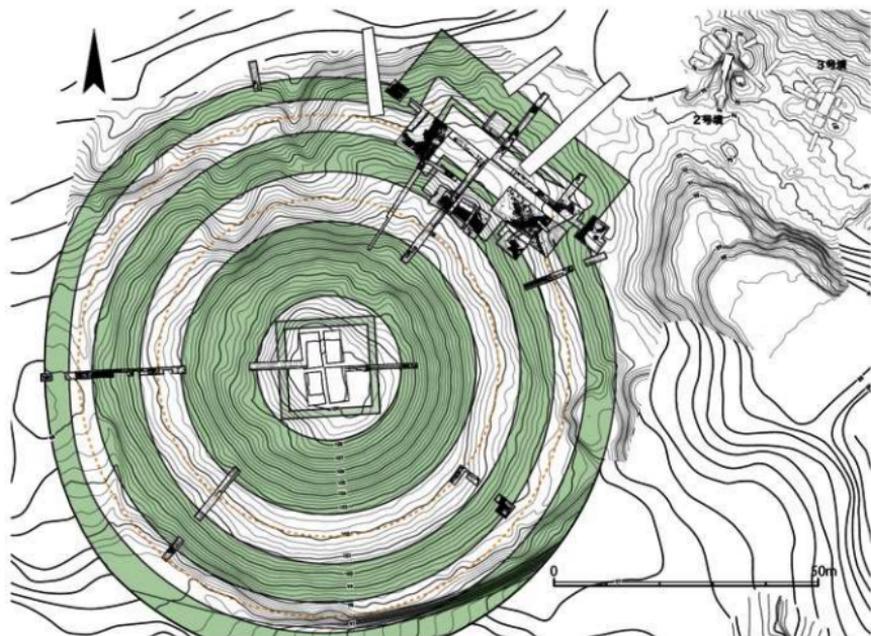
また、南東側のくびれ部裾の外側には盾形埴輪が1つだけ配置されていました。

中段の平坦面は前面に向かって大きく下がっており、今のところ小礫敷以外の遺構はみつかっていません。

上段では幅3m、長さ9mの長方形掘方をもつ遺構を確認しています。



造出し南東側の検出状態（第4次調査）



過去の発掘区位置図（第2～5次調査）

### 【発掘調査体験と出土遺物】

墳頂部は、1972年に奈良県教育委員会による埋葬施設の調査が行われています。しかし、当時は精密な測量を実施しなかったことから、正確な位置が不明確でした。このため、再調査することで墓坑の形状を確認し正確な位置を確認する必要があります。また、当時は破壊の危機にさらされていたことから、調査は極めて短期間で行われています。そのため、小さな遺物は取り上げられず、再び埋戻されている可能性があります。

このことから、墳頂部の調査は土をふるいにかけて丁寧に進めることにしています。この部分の調査は、市民等による発掘調査体験事業に活用し発掘調査の魅力や埋蔵文化財の重要性を学ぶ場としても好評です。埋葬施設は深さ約3mもあり、未だ30cmほどが掘り下げられただけですが、それでも斜縁神獸鏡や鍬形石の破片、管玉、鉄器、銅鏡、円板状土製品、埴輪などが出土し、富雄丸山古墳の実態を解明する上で貴重な成果をあげています。



発掘調査体験の風景



発掘調査体験等で出土した墳頂部の副葬品

## ● 埴輪について

富雄丸山古墳の発掘調査で最も多く出土すると考えられるのは埴輪です。埴輪には、大きく筒状の円筒埴輪と、様々なものをかたどった形象埴輪があります。

円筒埴輪は、古墳時代を通してつくられますが、時代によってつくり方や細部の特徴が異なります。この違いから新古関係を読み取ることで、大きく5つの時期の資料に分けることができます。完全に近い形で出土することはほぼなく、破片として出土するので、そのなかになどのような特徴があるかを十分観察しましょう。

また、円筒埴輪のなかには側面に<sup>ひれ</sup>がつく鱗付円筒埴輪があります。古墳時代前期後半にこの埴輪が流行するようで、富雄丸山古墳でも過去の調査で出土しています。

形象埴輪は、墳頂や造り出しに並べられることが多いため、その部分ではとくに注意して出土埴輪を観察してみましょう。円筒埴輪と同様に破片で出土するので、形状や表面の線刻文様などからどんな形象埴輪なのかを考えてみましょう。



富雄丸山古墳出土の円筒埴輪

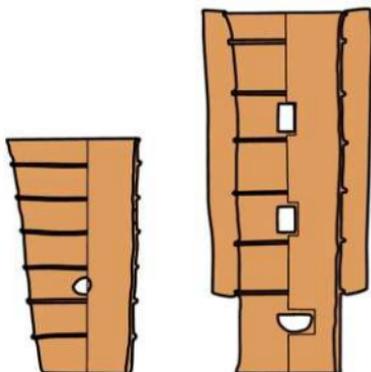
特徴 埴輪の 時期区分	焼成		外面調整		底部 調整	突帯彫削設定技法		断続 ナデ	透孔	
	有黒斑	無黒斑	1次 タテハケ	2次 ヨコハケ		刺突	凹線		△□▽	○
I期 古墳時代 前期 3世紀後半 ~ 4世紀中頃	■		■			■		■	●	●
II期 4世紀中頃 ~ 4世紀末	■			■			■	■	●	●
III期 古墳時代 中期 4世紀末 ~ 5世紀前半	■			■			■	■	●	●
IV期 5世紀前半 ~ 5世紀後半		■		■			■	■	●	●
V期 古墳時代 後期 5世紀後半 ~ 6世紀		■		■			■	■	●	●

円筒埴輪の諸特徴と編年

## ● 埴輪図鑑

円筒埴輪は弥生時代の墳丘墓に並べられた特殊器台が発展して、誕生したとされています。

形象埴輪は概ね埴輪編年Ⅱ期（4世紀中頃）に誕生し、最初は盾や鞍などの器財埴輪だけでしたが、Ⅳ期（5世紀中頃）になると人物・馬形埴輪などが出現します。



普通円筒埴輪

緒付円筒埴輪



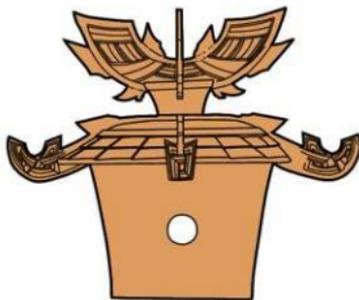
盾形埴輪



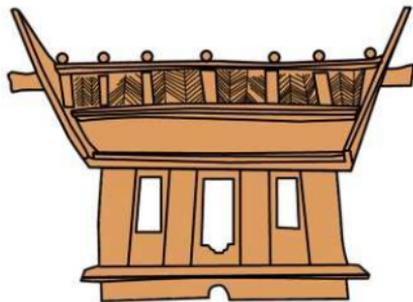
鞍形埴輪



甲冑形埴輪



蓋形埴輪



家形埴輪

## ● 富雄丸山古墳の時代

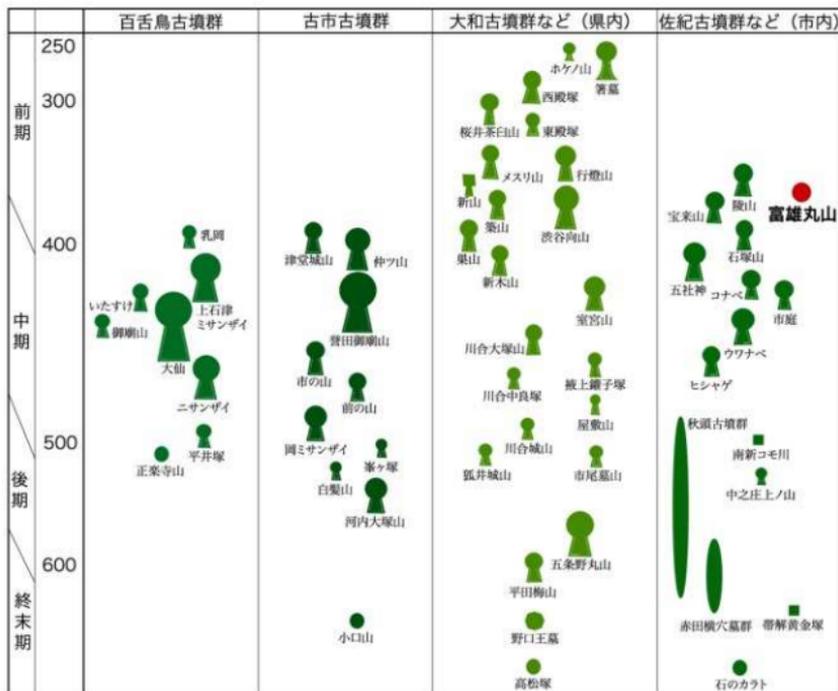
富雄丸山古墳は、これまでの調査で出土した遺物から概ね4世紀後半（古墳時代前期後半）の古墳と考えられています。しかし、滑石製模造品は概ね古墳時代中期以降に多く出土するので、厳密な時期についてはこれから行う発掘調査の成果にもとづいた議論が必要です。

大型古墳の出現は、奈良県桜井市の大和古墳群にある箸墓古墳に始まるとされています。これ以降、大和古墳群では、大型の前方後円墳が数多く築造されます。4世紀中頃になると、大和北部で佐紀古墳群の築造が始まり、陵山古墳（日葉酢媛陵）や宝来山古墳（垂仁天皇陵）が出現します。

4世紀末になると、佐紀古墳群での築造が続くなか、百舌鳥・古市古墳群の築造が始まります。5世紀には古墳の規模が巨大化して、大仙古墳（仁徳天皇陵）のような最大級の古墳がつくられます。

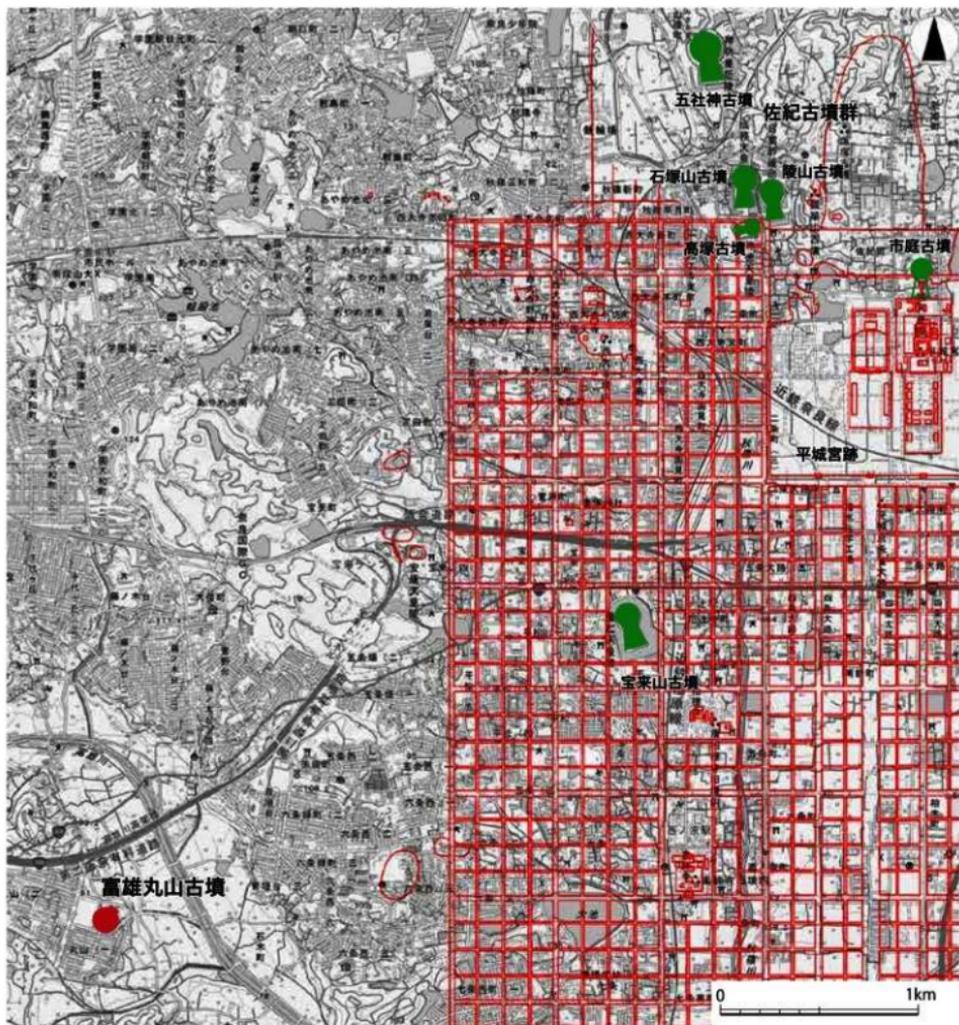
その後、6世紀になると徐々に大型の前方後円墳はつくられなくなり、墳丘だけでなく埋葬施設や副葬品も簡素になって、飛鳥・奈良時代へと移り変わっていきます。

佐紀古墳群の築造が始まり、百舌鳥・古市古墳群という大型古墳群が大阪南部に現れようとする頃、奈良北部と大阪を結ぶ交通拠点に築造されたのが富雄丸山古墳です。



近畿地方の大型古墳と富雄丸山古墳





現地学習会ハンドブック  
 ・日本最大の円墳・富雄丸山古墳

2022年10月14日 発行

編集・発行 奈良市教育委員会文化財課埋蔵文化財調査センター  
 〒630-8135

奈良市大安寺西二丁目281番地

TEL 0742-33-1821

FAX 0742-33-1822

Email maizoubunka@city.nara.lg.jp

印刷 株式会社 近畿印刷センター